

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護概論 I	1年次 後期	2	30	(看護師として24年)
<b>科目のねらい</b>				
地域での暮らしが健康に与える影響や、在宅療養者の健康レベル、発達段階、家族の特徴を学び、在宅看護の対象者や看護について理解する。また、地域包括ケアシステムの意義と概念について学び、健康と暮らしを支える看護を理解する。				
<b>到達目標</b>				
1. 暮らすということはどのようなことか考えることができる。 2. 支え合って生きるとはどのようなことか考えることができる。 3. 地域・在宅看護論の対象について理解することができる。 4. 地域の生活環境が健康に与える影響について理解することができる。 5. 健康と暮らしを支える看護について理解する。				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	暮らすということはどのようなことか述べることができる。	1. 公衆衛生看護・地域看護と在宅看護との関連 2. 地域のなかでの暮らしと健康	講義 GW	
2		1. 人々の暮らしの理解 2. 地域・在宅看護の役割		
3	支え合って生きるとはどのようなことか述べることができる。	1. 暮らしと地域	講義 GW	
4		1. 暮らしと地域を理解するための考え方		
5		1. 地域包括ケアシステムと地域共生社会		
6	地域・在宅看護論の対象について述べることができる。	1. 地域・在宅看護の対象者 地域による多様性 ライフステージによる多様 健康レベルの多様性	講義 GW	
7				
8		1. 家族の理解 わが国における家族の現状 わが国における家族とその変遷 地域・在宅看護の対象としての家族		
9				
10				
11	健康と暮らしを支える看護について述べることができる。	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護	講義	
12		1. 広がる看護の対象と提供方法 2. 地域における家族への看護		
13		1. 地域におけるライフステージに応じた看護		
14		1. 地域での暮らしにおけるリスクの理解		
15		1. 地域での暮らしにおける災害対策		

<b>受講上の注意</b> ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。	<b>関連科目</b> 社会保障論、関係法規、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、看護学概論
<b>事前および事後学習</b> 1. 事前学習：看護学概論、老年看護学概論等の既習内容については復習をしておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。	
<b>成績評価の方法</b> 平常点10%    提出物10%    筆記試験80%	
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1    地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2    地域・在宅看護の実践	

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護概論Ⅱ	1年次後期	1	15	(看護師として10年)
<b>科目のねらい</b>				
地域での療養生活を送る人とその家族を支える法や制度、施策を学び、地域で暮らし続けることをどのように支援しているのか理解する。				
<b>到達目標</b>				
1. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策について理解できる。 2. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントについて理解できる。 3. 看護が提供される多様な場と多職種連携を理解する。				
<b>DPとの関連</b>				
1. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識、技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	地域・在宅看護の実践の場と連携を述べることができる。	1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2. おもな地域・在宅看護実践の場	講義 GW	
2		1. 地域・在宅看護における多職種連携 多職種との連携・協働を考える		
3				
4	地域・在宅にかかわる制度とその活用について述べるができる。	1. 介護保険・医療保険制度	講義	
5				
6		1. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 2. 訪問看護の制度		
7				
8		1. 地域保健にかかわる法制度 2. 高齢者に関する法制度 3. 障害者・難病に関する法制度 4. 公費負担医療に関する法制度 5. 権利保障に関連する制度		
<b>受講上の注意</b>			<b>関連科目</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的な講義形式である。</li> <li>・積極的な姿勢で講義に臨むこと。</li> </ul>			社会保障論、関係法規、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、看護学概論	
<b>事前および事後学習</b>				
1. 事前学習：社会保障論、関係法規、老年看護学概論等の既習内容については復習をしておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。				
<b>成績評価の方法</b>				
平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
<b>教科書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤</li> <li>・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践</li> </ul>				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> <b>教科書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤</li> <li>・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践</li> </ul>				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護方法論 I	2年次 前期	2	45	(看護師として24年)
<b>科目のねらい</b> 在宅療養者や家族の在宅療養を支援していくために必要となる看護過程の考え方と、健康の保持増進・疾病の予防を強化するための看護について理解する。				
<b>到達目標</b> 1. 健康の保持増進・疾病予防に関わる看護としてのリスクマネジメントについて理解できる。 2. 地域で療養生活を送る人とその家族のアセスメントについて理解し、事例に活用できる。				
<b>DPとの関連</b> 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	在宅における呼吸管理・援助について述べるができる。	1. 在宅での呼吸管理・ケアの特徴 2. 呼吸に関するアセスメント 3. 呼吸への援助のポイント	講義	
2	在宅療養者の食生活・嚥下について述べるができる。	1. 在宅での食生活の特徴 2. 食生活・嚥下に関するアセスメント 3. 食生活・嚥下への援助のポイント	講義	
3	在宅療養者の排泄について述べるができる。	1. 在宅での排泄の特徴 2. 排泄（排尿、排便）に関するアセスメント 3. 尿失禁の予防と工夫 4. 便秘・便失禁の予防と工夫	講義	
4	在宅療養者の移動・移乗について述べるができる。	1. 在宅での移動・移乗の特徴 2. 移動・移乗に関するアセスメント 3. 移動・移乗の援助に関するポイント	講義	
5		1. 在宅での清潔援助の特徴 2. 清潔に関するアセスメント 3. 清潔の援助に関するポイント	講義	
6	在宅療養者の清潔について述べるができる。	1. 家庭内の物品を使って、清潔ケアに必要な物品を作成する。 2. 作成した物品を用いて清潔ケアを実施することができる。 ・ケリーパッド作成	演習	
7				
8	認知機能のアセスメント法と援助技術について述べるができる	1. 認知機能とは 2. 認知機能のアセスメントと援助の適応条件 3. 認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 4. 認知機能に障害がある療養者への在宅看護 5. 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	
9	在宅におけるエンドオブライフケアについて述べるができる	1. 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 2. エンドオブライフケアの展開	講義	
10		1. 在宅看護の活動におけるコミュニケーションとは何か。 2. 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション技術 3. 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント	講義	
11	在宅療養者の活動を支えるコミュニケーションについて述べるができる。	1. 初回訪問の面接技術、面接の条件、マナー 2. 初回訪問のロールプレイング（演習）に参加するシナリオ作成、配役設定、実施、評価を行う 3. ディスカッションを行う	演習 GW	
12				

回	目標	学習内容	方法	
13	在宅療養者の生活を安全に支えるため日常生活に潜むリスクについて述べることができ、療養上のリスクマネジメントについて理解することができる。	1. 在宅看護におけるリスクの特徴 ①リスクマネジメントの考え方 ②事故の背景要因について 2. 療養上のリスクマネジメント ①環境の整備による安全の確保 ②身体損傷の防止 ③薬物による事故の防止 ④感染の防止 ⑤災害に対する準備と対応	講義	
14				
15	在宅療養者とその家族についての特徴を踏まえた看護過程の考え方が理解できる。	1. 在宅看護過程のポイント 2. 事例を使用して在宅看護過程を展開する ①情報収集・情報の整理 ②アセスメント ③目標設定・計画 ④評価のしかた ⑤社会資源関連図の作成方法 3. 在宅看護の標準化に向けた取り組み	講義	
16				
17				
18				
19				
20	地域で暮らす療養者とその家族の生活を支えることができるよう具体的な援助方法が理解でき、実施することができる。	1. 事例を展開し、看護計画を立案する。 2. 社会資源関連図を作成する 3. グループワーク ①食生活、排泄、活動、清潔の4つの生活行動に対して具体的な援助計画を立案する。 ②援助計画に沿って、指名されたグループが援助を実施する。 ③援助の実施に対して、全員でディスカッションを行う 4. まとめ	演習 GW	
21				
22				
23				
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
・演習の多い授業となっている。 各自、積極的な姿勢で講義に臨むこと。		解剖生理学、病態論、心理学、関係法規、社会保障論、老年看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、基礎看護技術		
<b>事前および事後学習</b>				
1. 事前学習：解剖生理学、病態論、基礎看護技術等の既習内容については復習しておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げること。				
<b>成績評価の方法</b>				
平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2年次前期	1	30	(看護師として24年)
<b>科目のねらい</b>				
退院支援と在宅との連携である継続看護の重要性について学び、在宅での治療や看護の実際を理解する。				
<b>到達目標</b>				
1. 在宅看護の介入時期と看護の継続性について理解を深めることができる。 2. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解することができる。				
<b>DPとの関連</b>				
3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	在宅看護介入の時期別の特徴について述べるができる	1. 在宅療養準備期（退院前） 2. 在宅療養移行期 3. 在宅療養安定期 4. 急性増悪期 5. 終末期（看取り期） 6. 在宅療養終了期	講義	
2	褥瘡の予防について述べるができる。	1. 褥瘡とは何か 2. 褥瘡の予防 3. 褥瘡発生時の対応 4. 治療・ケア計画の実際	講義	
3	尿道留置カテーテル挿入中の在宅療養者について述べるができる。	1. 尿道留置カテーテルとは何か 2. 尿道留置カテーテルの適応条件 3. カテーテルの種類と適応 4. 合併症とその対処	講義	
4	ストーマ（人工肛門・人工膀胱）について述べるができる。	1. ストーマとは何か 2. ストーマの適応 3. ストーマからの排泄方法 4. おもな（晩期）合併症とその対応 5. ストーマ造設している療養者への生活の工夫と在宅看護	講義	
5	経管栄養法について述べるができる。	1. 経管栄養法とは何か 2. 経管栄養法の種類と適応 3. 経鼻経管栄養法 4. 胃瘻からの経管栄養 5. 経鼻経管栄養法・胃瘻共通の合併症 6. 経管栄養法を用いる療養者への生活の工夫と在宅看護	講義	
6	在宅中心静脈栄養法（HPN）について述べるができる。	1. 在宅中心静脈栄養法とは何か 2. 在宅中心静脈栄養法の適応条件 3. 在宅中心静脈栄養法を用いる療養者への在宅看護	講義	
7	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）について述べるができる。	1. 非侵襲的陽圧換気療法とは何か 2. 非侵襲的陽圧換気療法の適応条件 3. 非侵襲的陽圧換気療法を用いる療養者への在宅看護	講義	
8	在宅酸素療法（HOT）について述べるができる。	1. 在宅酸素療法とは何か 2. 健康保険によるHOTの適応基準 3. HOTを用いる在宅療養者への在宅看護	講義	
9	在宅人工呼吸療法（MVH）と排痰法について述べるができる。	1. 在宅人工呼吸療法とは何か 2. 在宅人工呼吸療法の適応条件 3. 在宅人工呼吸療法を行う療養者への在宅看護 4. 排痰に関する在宅看護技術	講義	

回	目標	学習内容	方法	担当
10	外来がん治療の支援について述べるができる。	1. 外来がん治療支援の基本 2. 外来がん薬物療法を受ける療養者の支援 3. 外来がん放射線治療を受ける療養者の支援	講義	
11	在宅における疼痛緩和ケアについて述べるができる	1. 痛みの理解 2. 疼痛緩和ケアの適応 3. 疼痛緩和ケアを受ける療養者への在宅看護	講義	
12	脳卒中をおこした患者の事例を通して、在宅療養導入についての一連の流れについて述べるができる	1. 療養者について情報 2. リハビリテーション病院からの退院計画 3. 在宅療養の開始	講義	
13	パーキンソン病の療養者に対する事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	
14	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	
15	COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開を考えることができる	1. 療養者について情報 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 実施経過と評価	講義	
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>能動的な講義形式である。</li> <li>積極的な姿勢で講義に臨むこと。</li> </ul>		解剖生理学、病態論、心理学、老年看護学、小児看護学 精神看護学、成人看護学、基礎看護技術		
<b>事前および事後学習</b>				
1. 事前学習：解剖生理学、病態論等の既習内容については復習をしておくこと。 2. 事後学習：既習した内容をまとめ、在宅看護論実習の準備学習とする。内容は実習に繋げる。				
<b>成績評価の方法</b>				
平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
教科書 <ul style="list-style-type: none"> <li>医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤</li> <li>医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践</li> </ul>				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護論実習 I (介護老人保健施設)	2年次 後期	1	30	(看護師として10年)
<b>重点目標</b>				
地域・在宅での生活を考えたセルフケア獲得に向けた支援を実践する。				
<b>学習活動</b>				
1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習準備ができる。 2. 地域・在宅療養へと移行するための中間施設としての介護老人保健施設の役割について理解を深める。 3. 利用者の生活を整える意義を考えられている。 4. 地域・在宅復帰に向け、社会資源の活用や多職種連携を行う必要性について理解を深める。 5. 看護実践を通して自己の看護に対する考えを明らかにできる。 6. 看護学生として望ましい態度で実習に望むことができる。				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
	介護老人保健施設 実習 4 日間	実習要項に準ずる ・施設オリエンテーション ・利用者とのコミュニケーションから生活状況を知る ・利用者への日常生活援助、医療処置見学、活動への参加 ・リハビリテーションへの参加	臨地実習	
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
看護専門職としての倫理観に基づいて、積極的な姿勢で実習を行う		心理学 老年看護学 精神看護学 地域・在宅看護学概論Ⅰ、Ⅱ 地域・在宅看護方法論Ⅰ、Ⅱ		
<b>事前および事後学習</b>				
・実習要項を基に地域・在宅看護に必要な事前学習をしておく。 ・学内実習にて学びの共有を図ることで事後学習とする。				
<b>成績評価の方法</b>				
実習内容に基づく評価表を用いて評価する				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践				



科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護ステーション・地域包括支援センター)	3年次 前期	2	90	(看護師として10年)
<b>重点目標</b> (訪問看護ステーション) 地域・在宅で生活する療養者とその家族またはその他の支援者がその人らしい生活を継続するための看護援助を実践する。 (地域包括支援センター) 地域包括支援センターにおける地域包括支援を学ぶ。				
<b>学習活動</b> (訪問看護ステーション) 1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習の準備ができる。 2. 利用者と家族またはその他の支援者のニーズを捉えることができる。 3. 利用者と家族またはその他の支援者に適した看護援助を実施できる。 4. 地域・在宅で暮らす利用者を支えている多職種連携について学ぶ。 5. 看護実践を通して自己の看護に対する考えを明らかにできる。 6. 看護学生として望ましい態度で実習に望むことができる。  (地域包括支援センター) 1. 自己のビジョンを明らかにし、自らの意思で実習の準備ができる。 2. 地域包括支援センターにおける包括的支援に参加できる。 3. 地域包括ケアシステムにおける中核的な機関である地域包括支援センターの役割について理解を深める。 4. 地域・在宅で生活する人々への支援に関わる関連機関との連携について理解できる。 5. 実習での学びを通して地域・在宅支援についての自己の考えを明らかにできる。 6. 看護学生として望ましい態度で実習に望むことができる。				
<b>DPとの関連</b> 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
	地域包括支援センター 臨地実習 2日間 学内実習 1.5日間	・地域包括支援センターでの見学実習 ・地域だよりの作成(地域包括支援センターの役割)	臨地実習 学内実習	
	訪問看護ステーション 臨地実習 5日間 学内実習 3日間	・同行訪問、利用者への看護実践 ・訪問看護ステーション実習で関わった利用者を通して、グループで援助計画を立案し、実践する。 ・訪問看護ステーション実習で関わった利用者を通して社会資源 関連図を完成させる。 ・8日間の学びの共有	臨地実習 学内実習	
<b>受講上の注意</b> 看護専門職としての倫理観に基づいて、積極的な姿勢で実習を行う		<b>関連科目</b> 心理学、老年看護学 精神看護学 地域・在宅看護学概論Ⅰ、Ⅱ 地域・在宅看護学方法論Ⅰ、Ⅱ		
<b>事前および事後学習</b> ・実習要項を基に地域・在宅看護に必要な事前学習をしておく。 ・学内実習にて学びの共有を図ることで事後学習とする。				
<b>成績評価の方法</b> 実習内容に基づく評価表を用いて評価する。				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 教科書 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 ・医学書院「系統看護学講座」地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践				